

8 授業科目及び単位数

分野	教育内容	授業科目	単位数	時間	1年次		2年次		3年次	
					単位	時間	単位	時間	単位	時間
基礎分野	科学的思考の基盤	日本語特論Ⅰ	1	30	1	30				
		日本語特論Ⅱ	1	30	1	30				
		物理学	1	30	1	30				
		情報科学	1	30	1	30				
	人間と生活、社会の理解	哲学	1	30					1	30
		文学と表現	1	30	1	30			1	30
		心理学	1	30	1	30				
		社会学	1	30	1	30				
		教育学	1	30			1	30		
		レクリエーション理論	1	30	1	30				
		人間関係論	1	30	1	30				
		英語Ⅰ	1	30			1	30		
		英語Ⅱ	1	30					1	30
		異文化理解	1	30						
	基礎分野小計		14	420	9	270	2	60	3	90
専門基礎分野	人体の構造と機能	生化学	1	30	1	30				
		形態機能学Ⅰ	1	30	1	30				
		形態機能学Ⅱ	1	30	1	30				
		形態機能学Ⅲ	1	30	1	30				
		形態機能学Ⅳ	1	30			1	30		
	疾病の成り立ちと回復の促進	薬理学	1	30	1	30				
		微生物学	1	30	1	30				
		臨床栄養学	1	30	1	30				
		病理学総論	1	30	1	30				
		病態治療論Ⅰ	1	30	1	30				
		病態治療論Ⅱ	1	30	1	30				
		病態治療論Ⅲ	1	30	1	30				
		病態治療論Ⅳ	1	30	1	30				
		病態治療論Ⅴ	1	30	1	30				
		病態治療論Ⅵ	1	30			1	30		
		病態治療論Ⅶ	1	30			1	30		
		公衆衛生学	2	60			2	60		
	健康支援と社会保障制度	社会福祉	2	60			2	60		
		社会福祉	2	60			2	60		
		関係法規	1	30	1	30				
	専門基礎分野小計		22	660	14	420	8	240	0	0
専門分野	基礎看護学	基礎看護学概論	1	30	1	30				
		基礎看護学方法論Ⅰ	1	30	1	30				
		基礎看護学方法論Ⅱ	1	30	1	30				
		基礎看護学方法論Ⅲ	1	30	1	30				
		基礎看護学方法論Ⅳ	1	30	1	30				
		基礎看護学方法論Ⅴ	1	30	1	30				
		基礎看護学方法論Ⅵ	1	15	1	15				
		基礎看護学方法論Ⅶ	1	30	1	30				
		基礎看護学方法論Ⅷ	1	15	1	15				
		基礎看護学方法論Ⅸ	1	30			1	30		
		臨床看護学総論	1	30			1	30		
		看護研究	1	30			1	30		
	基礎看護学小計		12	330	9	240	3	90		
	地域・在宅看護論	いづき市の暮らし	1	30	1	30				
		地域健康支援	1	15	1	15				
		地域・在宅看護概論	1	30			1	30		
		地域・在宅看護方法論Ⅰ	1	30			1	30		
		地域・在宅看護方法論Ⅱ	1	30					1	30
	地域・在宅看護論小計		5	135	2	45	2	60	1	30
	成人看護学	成人看護学概論	1	15	1	15				
		成人看護学方法論Ⅰ	1	30	1	30				
		成人看護学方法論Ⅱ	1	30	1	30				
		成人看護学方法論Ⅲ	1	30	1	30				
		成人看護学方法論Ⅳ	1	30			1	30		
	成人看護学小計		5	135	4	105	1	30		
	老年看護学	老年看護学概論	1	30	1	30				
		老年看護学方法論Ⅰ	1	30			1	30		
		老年看護学方法論Ⅱ	1	15			1	15		
		老年看護学方法論Ⅲ	1	15			1	15		
	老年看護学小計		4	90	2	45	2	45		
	小児看護学	小児看護学概論	1	30			1	30		
		小児看護学方法論Ⅰ	1	30			1	30		
		小児看護学方法論Ⅱ	1	15			1	15		
		小児看護学方法論Ⅲ	1	15			1	15		
	小児看護学小計		4	90			4	90		
	母性看護学	母性看護学概論	1	30			1	30		
		母性看護学方法論Ⅰ	1	30			1	30		
		母性看護学方法論Ⅱ	2	45					2	45
		母性看護学方法論Ⅲ	2	45					2	45
	母性看護学小計		4	105			2	60	2	45
	精神看護学	精神看護学概論	1	30	1	30				
		精神看護学方法論Ⅰ	1	30			1	30		
		精神看護学方法論Ⅱ	1	15					1	15
		精神看護学方法論Ⅲ	1	15					1	15
	精神看護学小計		4	90	1	30				
	看護の統合と実践	看護の統合と実践Ⅰ	1	30			1	30		
		看護の統合と実践Ⅱ	1	30					1	30
		看護の統合と実践Ⅲ	2	60					2	60
		看護の統合と実践Ⅳ	2	60					2	60
	看護の統合と実践小計		4	90					4	90
	健康状態別看護(領域横断)	保健指導Ⅰ	1	30					1	30
		保健指導Ⅱ	1	15					1	15
		周手術期と看護	1	30			1	30		
		エンドオブライフケア	1	30			1	30		
	健康状態別看護小計		4	90			2	60		
	専門分野小計		44	1155	17	450	19	540	8	165
臨地実習	臨地実習	基礎看護学Ⅰ	1	45	1	45				
		基礎看護学Ⅱ	1	45	1	45				
		基礎看護学Ⅲ	2	75			2	75		
		地域における看護(領域横断)	2	75			2	75		
		地域・在宅看護論	2	80					2	80
		健康状態別看護Ⅰ	2	60			2	60		
		健康状態別看護Ⅱ	2	60			2	60		
		健康状態別看護Ⅲ	2	60			2	60		
		健康状態別看護Ⅳ	2	80					2	80
		健康状態別看護Ⅴ	2	80					2	80
		小児看護学	2	80					2	80
		母性看護学	2	80					2	80
		精神看護学	2	80					2	80
		看護の統合と実践	2	80					2	80
	臨地実習小計		26	980	2	90	10	330	14	560
学年別合計					42	1230	39	1095	25	815
総合計					106単位	3140時間				

9 進度表

[illegible]

科目名 基礎看護学概論 (看護の基本となる概念)		配当時期 1 年前期	講義担当者	実務経験
実務経験教員対象科目 ○		単位数 1 単位	草野 ちづ	看護管理者
時間数 30 時間				
事前学習内容 次回授業の課題に取り組んで授業に参加する。				
科目のねらい・授業目標 1 看護の基本となる概念を理解する。				DP との関連 DP I -1 2 3 4 DP II -1 2 3 4
授業の流れ (全体のスケジュール (回数)・方法)				
回	学習内容			方法
1	看護の原点とナイチンゲール			講義
2	看護の発展と看護の定義			講義
3	看護の業務			講義
4	さまざまな看護理論家が考える看護① (看護理論とは 主な理論家の理論と看護理論の活用①)			講義
5	さまざまな看護理論家が考える看護② (主な理論家の理論と看護理論の活用②)			講義
6	看護の役割と機能 看護ケアと質保証 (小テスト)			講義
7	看護過程と臨床判断 (臨床判断力とは、臨床判断力を構成する要素)			講義
8	人間と健康 (人間の「こころ」と「からだ」、生涯発達しつづける存在としての人間 健康のとらえ方、 社会の変遷と健康観の変化、QOL)			講義
9	看護の提供者 (職業としての看護、看護教育制度、キャリア開発、看護職の就業状況)			講義 演習
10	看護活動の場			講義 演習
11	看護の継続性と多職種連携 (多様なニーズに対応した支援体制づくり)			講義 演習
12	私の考える看護の視点 (課題発表) (小テスト)			演習
13	職業倫理としての看護倫理① (職業倫理としての看護倫理、患者の権利と擁護)			講義 演習
14	職業倫理としての看護倫理② (看護者の倫理綱領)			講義 演習
15	職業倫理としての看護倫理③ (医療の倫理原則とケアの倫理) (小テスト)			講義 演習
使用するテキスト 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 1 医学書院 看護覚え書き 日本看護協会出版会 看護の基本となるもの 日本看護協会出版会 看護がみえる 4 看護過程の展開 メディックメディア			評価方法 小テスト 3 回 75 点 レポート評価 25 点	

科目名 基礎看護学方法論Ⅰ (共通基本技術Ⅰ)		配当時期 1 年前期～ 後期	講義担当者	実務経験
		単位数 1 単位	桃井 香代子	看護師
実務経験教員対象科目	○	時間数 30 時間		
事前学習内容 人間関係論、心理学で学んだコミュニケーションの基本と技術をノートにまとめる。 「看護覚書き」「看護の基本となるもの」のコミュニケーションに関連する項目を読む。				
科目のねらい・授業目標 1 看護におけるコミュニケーションを習得する。				DP との関連 DPⅠ-3 4 DPⅡ-1 2 3 DPⅢ-1 2 3
授業の流れ (全体のスケジュール (回数)・方法)				
回	学習内容			方法
1	グループワーク、カンファレンスの効果的な進め方、アサーティブネス			講義
2	カンファレンスの実際			演習
3	ロールプレイとは、リフレクションとは			講義 演習
4	効果的なカンファレンスの実際			講義 演習
5	連絡・報告・相談の重要性と方法 記録の目的・種類 (POS, フォーカスチャータリング含む)・方法、 記録・報告の条件 (情報開示含む)			講義
6	関係構築のためのコミュニケーション			講義 演習
7	ケアに活かすコミュニケーションの実際① (事例を用い実践) (4 時間)			演習
8	振り返り (患者役の学生にも参加してもらい実施)			
9	効果的なコミュニケーション			講義 演習
10	ケアに活かすコミュニケーションの実際② (事例を用い実践、振り返り) (4 時間)			演習
11				
12	患者家族とのコミュニケーション			講義 演習
13	ケアに活かすコミュニケーションの実際③ (事例を用い実践)			演習
14	まとめ：看護におけるコミュニケーションとは 発表 (3 時間)			演習
15				
16	筆記試験 (1 時間)			試験
使用するテキスト 系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院 看護がみえる 4 看護過程の展開 メディックメディア			評価方法 筆記試験 70 点 レポート等 30 点	

科目名 基礎看護学方法論Ⅱ (共通基本技術Ⅱ)		配当時期	1 年前期～ 後期	講義担当者	実務経験
		単位数	1 単位	國井 真弓 新國 香 理学療法士	看護師 看護師
実務経験教員対象科目		○	時間数	30 時間	
事前学習内容					
第 10 回の講義までに微生物学で学んだ感染に関する基本的な知識を復習する。					
科目のねらい・授業目標					DP との関連
1 科学的根拠に基づいた共通基本技術(感染予防、安全、安楽)を習得する。					DPⅠ-2
2 科学的根拠に基づいた基本的日常生活援助技術(環境)を習得する。					DPⅡ-1 2 3
					DPⅢ-1 2 3
授業の流れ(全体のスケジュール(回数)・方法)					
回	学習内容				方法
1	看護技術を学ぶにあたって、「安全」で「安楽」な看護技術の実施				講義
2	環境の調整①(環境とは、療養環境、環境整備)				講義 演習
3	環境の調整②(環境整備の実際)				演習
4	病床の整備①(ベッドメイキングの方法)				講義 演習
5	病床の整備②(ベッドメイキングの実際)				演習
6	病床の整備③(臥床患者のリネン交換)				講義 演習
7	苦痛の緩和・安楽確保①(ポジショニング)				講義
8	苦痛の緩和・安楽確保②(ポジショニングの実際)				演習
9	苦痛の緩和・安楽確保③(罨法) (1 時間)				講義 演習
10	苦痛の緩和・安楽確保④(罨法の実際)				演習
11	感染予防① (感染経路別予防策)				講義
12	感染予防② (洗浄、滅菌、消毒)				講義
13	感染予防③ (無菌操作、感染性廃棄物の取り扱い、針刺し事故防止)				講義 演習
14	感染予防④ (使用した器具の感染防止の取り扱い)				演習
15	感染予防⑤ (無菌操作の実際)				演習
16	筆記試験 (1 時間)				試験
使用するテキスト					評価方法
系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術Ⅰ 医学書院					筆記試験 90 点
系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術Ⅱ 医学書院					レポート等 10 点
根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院					

科目名 基礎看護学方法論Ⅲ (基本的日常生活援助技術Ⅰ)		配当時期 1 年前期	講義担当者	実務経験
		単位数 1 単位	迎田 美香	看護師
実務経験教員対象科目 ○		時間数 30 時間		
事前学習内容				
<活動・運動> 物理学の第1回目～第6回目までの授業内容を復習する。 基礎看護学方法論Ⅱの安全・安楽に関する授業内容を復習する。 「床上安静体験レポート」に取り組む。 「看護覚書き」「看護の基本となるもの」の活動・運動・休息に関連する項目を読む。 <食事> 形態機能学Ⅲ「食べる」の授業内容を復習する。				
科目のねらい・授業目標				DP との関連
1 安全・安楽かつ科学的根拠に基づいた基本的日常生活援助技術(活動・運動、休息・睡眠、食事)を習得する。				DPⅠ-1 3 4 DPⅡ-1 2 3 4 DPⅢ-1 2 3
授業の流れ(全体のスケジュール(回数)・方法)				
回	学習内容			方法
1	安全・安楽な活動・運動の援助① (活動(移動)のニーズの判断、体位変換・活動の援助を行うための観察、ボディメカニクスの活用)			講義 演習
2	安全・安楽な活動・運動の援助②(床上移動、転落予防)			講義 演習
3	安心して受けられる床上移動、体位変換の実際			演習
4	安全・安楽な活動・運動の援助③(車椅子への移乗・移動、患者の持てる力を活用し回復意欲につなげる援助、転倒・転落予防)			講義 演習
5	安心して受けられる車椅子への移動の援助の実際			演習
6	安心して受けられるストレッチャー、スライダーによる移動援助の実際			演習
7	休息・睡眠への援助			講義 演習
8	活動・休息の意義、活動・休息の援助のまとめ			講義 演習
9	安全な食事援助 (ニーズの判断、観察の視点、栄養とは、疾病時の食事、食事の援助が患者に与える影響)			講義 演習
10	安楽な食事援助(食事の評価と食事援助の準備)			講義 演習
11	安心して受けられる食事援助の実際			演習
12	非経口栄養(非経口栄養法の選択、観察の視点)			講義 演習
13	経管栄養法の実際 (4 時間)			演習
14				
15	食事の意義 食事援助のまとめ (1 時間)			講義 演習
16	筆記試験 (1 時間)			試験
使用するテキスト				評価方法
系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術Ⅰ 医学書院				筆記試験 60 点
系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術Ⅱ 医学書院				パフォーマンス評価 40 点
根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院				

科目名	基礎看護学方法論Ⅳ (基本的日常生活援助技術Ⅱ)		配当時期	1 年前期～ 後期	講義担当者	実務経験
			単位数	1 単位	松崎 安代 緒方 仁美	看護師 看護師
	実務経験教員対象科目 ○		時間数	30 時間		
事前学習内容						
<清潔> 形態機能学Ⅲ「皮膚の構造と機能」を復習する。 「看護覚書き」「看護の基本となるもの」の清潔に関連する項目を読む。 基礎看護学方法論Ⅱ「安全・安楽な援助」を復習して臨む。 <排泄> 形態機能学Ⅲ「トイレに行く」の授業内容を復習する。 「看護覚書き」「看護の基本となるもの」の排泄に関連する項目を読む。						
科目のねらい・授業目標						DP との関連
1 安全・安楽かつ科学的根拠に基づいた基本的日常生活援助技術(清潔・排泄)を習得する。						DPⅠ-1 3 4 DPⅡ-1 2 3 4 DPⅢ-1 2 3
授業の流れ(全体のスケジュール(回数)・方法)						
回	学習内容					方法
1	安全・安楽な清潔ケア(清潔のニーズ、観察の視点、清潔ケアの種類、 清潔ケアが対象にもたらす効果、患者の持てる力を活かした援助)					講義 演習
2	安心して受けられる清潔ケア(衣服の選択、洗髪)					講義 演習
3	安心して受けられる清潔ケア(洗髪)の実際					講義 演習
4	安心して受けられる清潔ケア(清拭、整容、部分浴)					講義 演習
5	安心して受けられる清潔ケア(清拭、整容、部分浴)の実際					演習
6	安全・安楽な入浴・シャワー浴、点滴を留置している患者の寝衣交換					講義 演習
7	陰部の保清、口腔の清潔					講義
8	陰部の保清、口腔の清潔の実際					演習
9	清潔ケアの意義、清潔・衣生活援助のまとめ (1 時間)					講義 演習
10	安全な排泄援助(排泄のニーズ、観察の視点、排泄ケアが及ぼす影響)					講義
11	安楽な排泄援助(患者の持てる力を活かし患者の回復意欲につなげる援助)					講義 演習
12	排尿・排便障害のある患者の看護(おむつ交換、浣腸)					講義 演習
13	排尿・排便障害のある患者の看護(おむつ交換、浣腸の実際)					演習
14	排尿障害のある患者の看護(導尿)、排泄援助の意義、排泄援助のまとめ					講義 演習
15	排尿障害のある患者の看護(一時的導尿の実際)					演習
16	筆記試験 (1 時間)					試験
使用するテキスト					評価方法	
系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術Ⅰ 医学書院					筆記試験 60 点	
系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術Ⅱ 医学書院					パフォーマンス評価 40 点	
根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院						

科目名	基礎看護学方法論Ⅴ (共通基本技術Ⅲ)		配当時期	1年後期	講義担当者		実務経験	
			単位数	1単位	松崎 安代		看護師	
実務経験教員対象科目			○	時間数	30時間			
事前学習内容								
9回～13回に関連する形態機能学の知識を復習する								
科目のねらい・授業目標							DPとの関連	
1 看護の対象となる人々を理解する技法の一つであるヘルスアセスメントについて、具体的な方法を習得する。							DPⅠ-1 3 4 DPⅡ-1 2 3 4 DPⅢ-1 2 3	
授業の流れ(全体のスケジュール(回数)・方法)								
回	学習内容						方法	
1	フィジカルアセスメント総論、フィジカルアセスメントの基本技術 医療面接(インタビュー、問診)						講義	
2	身体計測、意識状態・精神面のアセスメント						講義	
3	身体計測の実際						演習	
4	体温、脈拍、呼吸測定						講義	
5	体温、脈拍、呼吸測定の実際						演習	
6	血圧測定						講義	
7	血圧測定の実際						演習	
8	呼吸器系のアセスメント						演習	
9	心臓・血管系のアセスメント、皮膚・爪のアセスメント						演習	
10	脳神経(12対)・頭頸部のアセスメント						演習	
11	腹部・乳房・腋窩のアセスメント						演習	
12	筋・骨格・神経系のアセスメント						演習	
13	症状・兆候からのアセスメント						講義	
14	症状・兆候からのアセスメント の実際 (3時間)						演習	
15								
16	筆記試験 (1時間)						試験	
使用するテキスト							評価方法	
系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術Ⅰ 医学書院							筆記試験 50点	
根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院							レポート等 50点	
看護がみえる vol.3 フィジカルアセスメント メディックメディア								

科目名 基礎看護学方法論VI (診療に伴う技術I)		配当時期	1年後期	講義担当者	実務経験
		単位数	1単位	箱崎 裕子	看護師
実務経験教員対象科目	○	時間数	15時間		
事前学習内容 病態治療論Iで学んだ検査について復習しまとめる。					
科目のねらい・授業目標 1 科学的根拠に基づいた診療に伴う基本技術(呼吸・循環・体温調整・診察・検査・治療・処置)を習得する。					DPとの関連 DPⅡ-1 3 DPⅢ-1 2 3
授業の流れ(全体のスケジュール(回数)・方法)					
回	学習内容				方法
1	体温調整、呼吸を楽にする姿勢・呼吸法、血圧を保持する姿勢				講義
2	吸引、酸素吸入				講義 演習
3	一時的吸引、酸素療法の実際				演習
4	検査・処置時の看護(尿・便・喀痰・血液採取および検査、X線検査、内視鏡検査、心電図検査、超音波検査、核医学検査、基礎代謝検査、呼吸機能検査、CT検査、穿刺:胸腔・腹腔・骨髄・腰椎) ＊上記の検査・処置について看護師の役割と責任、対象者の心理を学ぶ。				演習
5	検査・処置時の看護・発表				講義 演習
6	診療・検査・処置時の看護				講義
7	検査時・体温調節の看護の実際				演習
8	筆記試験 (1時間)				試験
使用するテキスト 系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院				評価方法 筆記試験 90 点 レポート等 10 点	

科目名	基礎看護学方法論Ⅶ (基本的看護技術の実践)		配当時期	1 年前期～ 後期	講義担当者	実務経験
			単位数	1 単位	迎田 美香 松崎 安代 緒方 仁美	看護師 看護師 看護師
	実務経験教員対象科目		○	時間数	30 時間	
事前学習内容 基礎看護学Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴでの学びを復習し臨む。						
科目のねらい・授業目標 1 各単元で学んだ知識を元に基本的看護技術を実践する。						DP との関連 DPⅠ-1 3 DPⅡ-1 2 3 4 DPⅢ-1 2 3
授業の流れ (全体のスケジュール (回数)・方法)						
回	学習内容					方法
1	オリエンテーション					講義
2	移送・移乗 (車いす) 、ポジショニング (4 時間)					実技試験
3						
4	足浴・点滴をしている患者の寝衣交換 (4 時間)					実技試験
5						
6	清拭・寝衣交換 (4 時間)					実技試験
7						
8	洗髪・臥床患者のシーツ交換 (4 時間)					実技試験
9						
10	排泄援助 (浣腸、おむつ交換、陰部洗浄) (4 時間)					実技試験
11						
12	口腔ケア、経管栄養 (4時間)					実技試験
13						
14	バイタルサイン測定 (4 時間)					実技試験
15						
使用するテキスト 系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院					評価方法 パフォーマンス評価 100 点	

科目名 基礎看護学方法論Ⅷ (看護の展開方法)		配当時期 1年後期	講義担当者	実務経験
		単位数 1単位	松崎 安代	看護師
実務経験教員対象科目	○	時間数 15時間		
事前学習内容				
科目のねらい・授業目標 1 看護を科学的に展開するための思考過程を習得する。				DPとの関連 DPⅠ-1 2 DPⅡ-1 2 3 4 DPⅢ-1 2 3
授業の流れ(全体のスケジュール(回数)・方法)				
回	学習内容			方法
1	看護過程とは			講義
2	看護過程の構成要素①(情報収集)			講義
3	看護過程の構成要素②(情報の解釈・分析・判断)			講義
4	看護過程の構成要素③(関連性の把握、看護上の問題の特定)			講義
5	看護過程の構成要素④(看護計画)			講義
6	看護過程の構成要素⑤(看護計画)			講義
7	看護過程の構成要素⑥(評価・看護診断)			講義
8	筆記試験 (1時間)			試験
使用するテキスト			評価方法	
看護がみえる vol.4 看護過程の展開			筆記試験	85 点
系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術Ⅰ 医学書院			レポート等	15 点
系統看護学講座 専門分野 臨床看護総論				
治療薬マニュアル 医学書院				
臨床検査データブック 医学書院				
看護過程に沿った対症看護 学研				

科目名 基礎看護学方法論Ⅸ (診療に伴う技術Ⅱ)		配当時期 2 年前期	講義担当者	実務経験
			岡田 ひろみ 坂本 織絵 小山 敦	看護師 救急看護認定看護師 医師
実務経験教員対象科目		○	単位数 1 単位 時間数 30 時間	
事前学習内容				
薬理学で学んだ与薬の基礎知識(薬物の使用目的、剤形と与薬経路、薬物動態、薬の管理)、薬物療法と看護(薬物療法における看護師の役割)を復習する。				
科目のねらい・授業目標				DP との関連
1 科学的根拠に基づいた診療に伴う基本技術(与薬、救命救急処置、包帯法)を習得する。				DPⅠ-3 DPⅡ-1 3 DPⅢ-1 2 3
授業の流れ(全体のスケジュール(回数)・方法)				
回	学習内容			方法
1	経口・経皮・外用薬・直腸内の与薬法			講義
2	経口・経皮・外用薬・直腸内の与薬法の実際			演習
3	誤薬防止、注射の準備 (3 時間)			講義 演習
4				
5	注射の準備の実際			演習
6	注射における与薬方法(皮下注射法・筋肉内注射・静脈注射・点滴静脈内注射)			講義 演習
7	注射における与薬方法(皮下注射法・筋肉内注射・静脈注射・点滴静脈内注射)			講義 演習
8	注射における与薬方法の実際			演習
9	採血の方法①			講義
10	採血の方法②			講義
11	静脈血採血の実際、真空管採血の体験、検体の取り扱い			演習
12	包帯法 (1 時間)			講義
13	救命救急処置(気道確保、人工呼吸、心マッサージ、自動体外式除細動器、止血法) (4 時間)			講義 演習
14				
15	救命救急処置(気道確保、人工呼吸、心マッサージ、自動体外式除細動器、止血法)、			演習
16	包帯法の実際 (3 時間)			
17	筆記試験 (1 時間)			試験
使用するテキスト				評価方法
系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術Ⅰ 医学書院				筆記試験 90 点
系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術Ⅱ 医学書院				レポート評価等 10 点
根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院				

科目名 臨床看護総論 (看護技術の適応)		配当時期 2 年前期	講義担当者 松崎 安代	実務経験 看護師
		単位数 1 単位 時間数 30 時間		
実務経験教員対象科目	○			
事前学習内容 基礎看護学方法論Ⅷをもとに看護の展開方法について復習する。				
科目のねらい・授業目標 1 健康障害を持つ対象を理解し、看護技術を適応する方法の基礎を習得する。				DP との関連 DP I -1 2 3 4 DP II -1 2 3 4 DP III -1 2 3
授業の流れ（全体のスケジュール（回数）・方法）				
回	学習内容			方法
1	どのように看護に必要な情報に気づき看護援助に活かすか①			講義
2	どのように看護に必要な情報に気づき看護援助に活かすか②、事例紹介			演習
3	病態構造図をもとに事例患者の病態を予測する			演習
4	ヘンダーソンの看護論に基づくアセスメント①（情報収集）			演習
5	ヘンダーソンの看護論に基づくアセスメント②（情報収集）			演習
6	ヘンダーソンの看護論に基づくアセスメント③（解釈・分析・判断）			演習
7	ヘンダーソンの看護論に基づくアセスメント④（解釈・分析・判断）			演習
8	「人間の反応」の関連性の把握①			演習
9	「人間の反応」の関連性の把握②			演習
10	看護計画立案①			演習
11	看護計画立案②			演習
12	看護介入の実施①			演習
13	看護介入の実施②（4 時間）			演習
14				
15	評価について			演習
使用するテキスト 看護がみえる vol.4 看護過程の展開 系看 専門分野 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 系看 専門分野 臨床看護総論 治療薬マニュアル 医学書院 臨床検査データブック 医学書院 看護過程に沿った対症看護 学研			評価方法 パフォーマンス評価 100 点	

科目名 看護研究 (ケーススタディ)		配当時期 2 年後期	講義担当者	実務経験
			岡田 ひろみ	看護師
実務経験教員対象科目		○	単位数 1 単位	時間数 30 時間
事前学習内容				
科目のねらい・授業目標				DP との関連
1 看護研究の意義を理解し、受け持ち患者を通してケーススタディを行い、研究的態度やその方法を習得する				DPⅡ-1 DPⅥ-2
授業の流れ (全体のスケジュール (回数)・方法)				
回	学習内容			方法
1	看護研究の目的			講義
2	研究方法の種類①			講義
3	研究方法の種類②			講義
4	研究方法の種類・文献の批判的読み方			講義
5	文献の批判的読み方			講義
6	研究計画書の作成			講義
7	ケーススタディの実際①			演習
8	ケーススタディの実際②			演習
9	ケーススタディの実際③			演習
10	ケーススタディの実際④			演習
11	ケーススタディの実際⑤			演習
12	ケーススタディの実際⑥			演習
13	ケーススタディの実際⑦			演習
14	ケーススタディ発表 (3 時間)			演習
15				
16	筆記試験 (1 時間)			試験
使用するテキスト				評価方法
系看 別巻 看護研究 医学書院				筆記試験 60 点
				パフォーマンス評価 40 点

科目名 成人看護学概論 実務経験教員対象科目 ☐	配当時期 1年後期 単位数 1単位 時間数 15時間	講義担当者 迎田 美香	実務経験 看護師
事前学習内容 シラバスを読み内容を確認してから授業に臨むこと。			
科目のねらい・授業目標 1 成人期にある対象の特徴と生活について理解する。 2 成人期に特徴的に生じやすい健康問題の発生状況と予防について理解する。 3 成人期の健康問題に応じた看護の目的と援助方法を理解する。			DPとの関連 DPⅢ-1 2 3 DPⅣ-1 2 3 DPⅤ-1
授業の流れ（全体のスケジュール（回数）・方法）			
回	学習内容		方法
1	成人の特徴と生活①		講義
2	成人の特徴と生活②		講義
3	成人の特性や能力に応じたアプローチ		講義
4	生命の危機状態にある人への看護		講義
5	慢性疾患をもちながら生活する人への看護		講義
6	障害をもちながら生活する人への看護		講義
7	がん看護		講義
8	筆記試験（1時間）		試験
使用するテキスト 系統看護学講座 専門分野 成人看護学総論 医学書院 参考文献 授業中に提示する			評価方法 筆記試験 100点

科目名		配当時期	1年後期	講義担当者	実務経験
成人看護学方法論Ⅰ 生命をささえる看護 (呼吸機能・循環機能障害に 応じた看護)		単位数	1単位	迎田 美香 新國 香	看護師 看護師
実務経験教員対象科目		時間数	30時間		
事前学習内容 「看護学生のための重要疾患ドリル」「看護学生のための重要症状ドリル」の呼吸器、循環器の問題を解いてから講義に参加する。 病理学総論で作成した病態構造図（慢性閉塞性肺疾患、心不全）について復習し、講義に持参する。					
科目のねらい・授業目標 1 生命をささえる呼吸機能・循環機能の状態ならびに障害による生活への影響を把握し、必要な援助と生活指導を理解する。					DPとの関連 DPⅢ-1 2 3 DPⅣ-1 2 3 DPⅤ-1
授業の流れ（全体のスケジュール（回数）・方法）					
回	学習内容				方法
1	呼吸機能障害時の看護① 呼吸機能障害のある患者のアセスメント				講義
2	呼吸機能障害時の看護② 炎症性疾患患者の看護				講義
3	呼吸機能障害時の看護③ 慢性閉塞性肺疾患患者の看護				講義・演習
4	呼吸機能障害時の看護④ 慢性閉塞性肺疾患患者の看護				講義・演習
5	呼吸機能障害時の看護⑤ 気管支喘息患者の看護				講義
6	呼吸機能障害時の看護⑥ 呼吸困難時の看護技術 (排痰を促す看護、気管内挿管・気管切開・人工呼吸器装着時の看護)				講義
7	呼吸機能障害時の看護⑦ 呼吸困難時の看護技術の実際 (体位ドレナージ、パルスオキシメータ、人工呼吸器)				演習
8	循環機能障害時の看護① 心不全患者の看護				講義
9	循環機能障害時の看護② 心不全患者の看護				講義
10	循環機能障害時の看護③ 不整脈患者の看護				講義
11	循環機能障害時の看護④ 不整脈患者の看護（1時間）				講義
11	循環機能障害時の看護⑤ 虚血性心疾患患者の看護				講義・演習
12	循環機能障害時の看護⑥ 虚血性心疾患患者の看護				講義・演習
14	循環機能障害時の看護⑦ 動脈系疾患、静脈系疾患患者の看護				講義
13	循環機能障害時の看護⑧ 心電図検査の実際				演習
16	筆記試験（1時間）				試験
使用するテキスト 系統看護学講座 専門分野 呼吸器 医学書院 系統看護学講座 専門分野 循環器 医学書院 系統看護学講座 別巻 クリティカルケア看護学 医学書院				評価方法 筆記試験 80点 パフォーマンス評価 20点	

科目名	成人看護学方法論Ⅱ 機能回復をささえる看護 (脳・神経機能及び運動機能、 感覚機能障害に応じた看護)	配当時期	1年後期	講義担当者	実務経験
				國井 真弓	看護師
実務経験教員対象科目		単位数	1単位		
		時間数	30時間		
事前学習内容					
「看護学生のための重要疾患ドリル」「看護学生のための重要症状ドリル」の脳・神経、運動器、感覚器の問題を解いてから講義に参加する。 病理学総論で作成した病態構造図（脳梗塞）について復習し、講義に持参する。					
科目のねらい・授業目標					DPとの関連
1 脳・神経機能及び運動機能、感覚機能障害及びの状態ならびに生活への影響を把握し、リハビリテーションを支えるために必要な援助と生活指導を理解する。					DPⅢ-1 2 3 DPⅣ-1 2 3 DPⅤ-1
授業の流れ（全体のスケジュール（回数）・方法）					
回	学習内容				方法
1	脳・神経機能障害時の看護①（頭蓋内圧亢進症状）脳腫瘍患者の看護 頭部外傷患者の看護				講義
2	脳・神経機能障害時の看護②（意識障害、髄膜刺激症状） 脳血管障害・脳炎・髄膜炎患者の看護				講義
3	脳・神経機能障害時の看護③（高次機能障害）脳梗塞患者の看護				講義
4	脳・神経機能障害時の看護④ 脳梗塞患者の看護				講義・演習
5	脳・神経機能障害時の看護⑤ 脳梗塞患者の看護				講義・演習
6	運動機能障害時の看護① 脊髄損傷患者の看護				講義
7	運動機能障害時の看護② 脊椎疾患患者の看護（椎間板ヘルニア）				講義
8	運動機能障害時の看護③ 骨折時の看護				講義
9	運動機能障害時の看護④ 四肢切断後の看護（1時間） 骨折時の看護（1時間）				講義 講義・演習
10	運動機能障害時の看護⑤ 骨折時の看護（1時間）				講義・演習
11	運動機能障害時の看護⑥ 骨・関節炎症性疾患患者の看護（関節リウマチ、変形性関節症）				講義
12	機能回復をささえる看護技術 自動他動運動の実際				演習
13	感覚器障害時の看護① 嗅覚・味覚・触覚障害時の看護				講義
14	感覚器障害時の看護② 視覚・聴覚機能障害時の看護				講義・演習
15	感覚器障害時の看護③ 視覚・聴覚機能障害時の看護				講義
16	筆記試験（1時間）				試験
使用するテキスト				評価方法	
系統看護学講座 専門分野 脳・神経 医学書院				筆記試験 80点	
系統看護学講座 専門分野 運動器 医学書院				パフォーマンス評価 20点	
系統看護学講座 専門分野 眼 医学書院					
系統看護学講座 専門分野 耳鼻咽喉 医学書院					
系統看護学講座 専門分野 皮膚 医学書院					
系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 医学書院					
根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院					

科目名 成人看護学方法論Ⅲ 自己管理をささえる看護 (栄養代謝・内分泌・身体防御機能障害に応じた看護)		配当時期 1年後期	講義担当者	実務経験
実務経験教員対象科目 ○		単位数 1単位 時間数 30時間	黒田史彦	看護師
事前学習内容 「看護学生のための重要疾患ドリル」「看護学生のための重要症状ドリル」の消化器（肝炎・肝硬変・胆道疾患・膵臓疾患）、内分泌、アレルギー・感染症・膠原病の問題を解いてから講義に参加する。 病理学総論で作成した病態構造図（肝炎、糖尿病）について復習し、講義に持参する。				
科目のねらい・授業目標 1 栄養代謝・内分泌・身体防御機能障害の状態ならびに生活への影響を把握し、自己管理をささえるために必要な援助と生活指導を理解する。				DPとの関連 DPⅢ-1 2 3 DPⅣ-1 2 3 DPⅤ-1
授業の流れ（全体のスケジュール（回数）・方法）				
回	学習内容			方法
1	内分泌機能障害時の看護① パセドウ病患者の看護			講義
2	内分泌機能障害時の看護② 甲状腺機能低下症患者の看護			講義
3	内分泌機能障害時の看護③ 甲状腺がん患者の看護			講義
4	内分泌機能障害時の看護④ 下垂体疾患、副甲状腺疾患、副腎疾患患者の看護			講義
5	身体防御機能障害時の看護① アレルギー性疾患患者の看護			講義
6	身体防御機能障害時の看護② 膠原病患者の看護			講義
7	身体防御機能障害時の看護③ HIV感染症（1時間）			講義
8	栄養代謝障害時の看護⑤ 高尿酸血症、脂質異常症、肥満患者の看護			講義
9	栄養代謝障害時の看護⑥ 糖尿病患者の看護			講義・演習
10	栄養代謝障害時の看護⑦ 糖尿病患者の看護			講義・演習
11	栄養代謝障害時の看護⑧ 血糖測定の実際			演習
12	栄養代謝障害時の看護② 肝炎・肝硬変患者の看護			講義・演習
13	栄養代謝障害時の看護① 肝炎・肝硬変患者の看護			講義
14	栄養代謝障害時の看護③ 膵炎・胆石患者の看護			講義
15	栄養代謝障害時の看護④ 肝がん患者の看護 膵臓がん患者の看護			講義
16	筆記試験（45分）			試験
使用するテキスト 系統看護学講座 専門分野 消化器 医学書院 系統看護学講座 専門分野 内分泌・代謝 医学書院 系統看護学講座 専門分野 アレルギー・膠原病・感染症 医学書院 系統看護学講座 専門分野 皮膚 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学総論 医学書院			評価方法 筆記試験 80点 パフォーマンス評価 20点	

科目名 成人看護学方法論Ⅳ 生き抜くことをささえる看護 (消化・吸収機能、造血機能、 生殖・排尿機能障害に応じた看護)		配当時期 2 年前期 単位数 1 単位 時間数 30 時間	講義担当者 國井 真弓	実務経験 看護師
実務経験教員対象科目		○		
事前学習内容 「看護学生のための重要疾患ドリル」「看護学生のための重要症状ドリル」の消化器、血液・造血器、腎泌尿器、女性生殖器・乳腺の問題を解いてから講義に参加する。 病理学総論で作成した病態構図(白血病)について復習し、講義に持参する。				
科目のねらい・授業目標 1 消化・吸収機能、造血機能、生殖・排尿機能障害の状態ならびに生活への影響を把握し、がんを抱えながら生活する人への必要な援助と生活指導を理解する。				DP との関連 DPIII-1 2 3 DPIV-1 2 3 DPV-1
授業の流れ(全体のスケジュール(回数)・方法)				
回	学習内容			方法
1	消化・吸収機能障害時の看護① 口腔腫瘍、咽頭腫瘍患者の看護			講義
2	消化・吸収機能障害時の看護② 食道がん患者の看護			講義
3	消化・吸収機能障害時の看護③ 食道がん患者の看護 胃がん患者の看護			講義
4	消化・吸収機能障害時の看護④ 大腸がん患者の看護 腸閉塞患者の看護			講義・演習
5	消化・吸収機能障害時の看護⑤ 腸閉塞患者の看護			講義・演習
6	消化・吸収機能障害時の看護⑦ 炎症性疾患・潰瘍性疾患患者の看護			講義
7	血液・造血器障害時の看護① 白血病患者の看護			講義・演習
8	血液・造血器障害時の看護② 白血病患者の看護			講義・演習
9	血液・造血器障害時の看護③ 輸血療法の実際			演習
10	内部環境調節・排尿障害時の看護① 腎不全・慢性腎臓病患者の看護			講義
11	内部環境調節・排尿障害時の看護② 腎がん、膀胱がん患者の看護 前立腺がん患者の看護			講義
12	内部環境調節・排尿障害時の看護③ 前立腺肥大症、尿路結石患者の看護			講義
13	生殖・乳腺機能障害時の看護① 子宮がん、卵巣がん患者の看護			講義
14	生殖・乳腺機能障害時の看護② 子宮筋腫、子宮内膜症、卵巣嚢腫患者の看護 生殖機能障害時の看護			講義
15	生殖・乳腺機能障害時の看護③ 乳がん患者の看護 (1 時間)			講義
16	筆記試験 (1 時間)			試験
使用するテキスト 系統看護学講座 専門分野 血液・造血器 医学書院 系統看護学講座 専門分野 消化器 医学書院 系統看護学講座 専門分野 腎・泌尿器 医学書院 系統看護学講座 専門分野 女性生殖器 医学書院 系統看護学講座 専門分野 歯・口腔 医学書院 系統看護学講座別巻 がん看護学 医学書院			評価方法 筆記試験 80 点 パフォーマンス評価 20 点	

科目名 小児看護学概論 (対象・目的の理解)	配当時期 2 年前期	講義担当者 緒方 仁美 箱崎 裕子	実務経験 看護師 看護師
実務経験教員対象科目	○	単位数 1 単位	時間数 30 時間
事前学習内容 シラバスを事前に確認し、授業の中で何を学ぶのか理解しておくこと			
科目のねらい・授業目標 1 こどもの特徴やこどもを取り巻く環境を理解し、小児看護の役割と機能について学ぶ。			DP との関連 DP IV-1 2 3 DP V-1 2
授業の流れ (全体のスケジュール (回数)・方法)			
回	学習内容		方法
1	小児看護の対象 小児看護学の理念 小児看護の変遷		講義
2	小児看護学における倫理 こどもの権利		講義
3	こどもの特徴 ライフサイクルからみた成長・発達段階各期 成長・発達の原則		講義
4	乳児期の形態的・機能的成長発達 精神運動機能の発達 心理・社会的発達		講義
5	幼児期の形態的・機能的成長発達 精神運動機能の発達 心理・社会的発達 ①		講義
6	幼児期の形態的・機能的成長発達 精神運動機能の発達 心理・社会的発達 ②		講義
7	乳幼児期の日常生活と養育 睡眠 基本的生活習慣の確立		講義
8	学童期・思春期の形態的・機能的成長発達 精神運動機能の発達 心理・社会的発達		講義
9	こどもの栄養の意義 乳児期・幼児期・学童期・思春期の栄養と食生活		講義
10	発育・発達評価 (1 時間)		講義
11	こどもをめぐる法律と保健対策		講義
12	現代社会における諸問題 虐待 児童虐待防止法		講義
13	家族の特徴と家族アセスメント こどもの事故防止と安全		講義
14	健康障害がこどもと家族に与える影響①		講義
15	健康障害がこどもと家族に与える影響②		講義
16	試験 (1 時間)		試験
使用するテキスト 系統看護学講座 専門分野 小児看護学 1 医学書院 系統看護学講座 専門分野 小児看護学 2 医学書院 参考文献 講義の中で提示する		評価方法 筆記試験 100 点	

科目名 小児看護学方法論Ⅰ (こどもの養育・小児の看護技術)		配当時期 2年後期 単位数 1単位 時間数 30時間	講義担当者	実務経験
			箱崎 裕子 渡邊 純子	看護師 小児救急看護 認定看護師
実務経験教員対象科目		○		
事前学習内容 保育所演習に備えて、小児看護学概論のこども（乳幼児期）の日常生活と養育を復習すること。				
科目のねらい・授業目標 1 小児看護に必要な養育・看護技術を学ぶ。				DPとの関連 DPⅣ-1 2 3 DPⅤ-1
授業の流れ（全体のスケジュール（回数）・方法）				
回	学習内容			方法
1	こどものアセスメントに必要な技術 (1)コミュニケーション (2)バイタルサイン (3)身体計測 (4)身体的アセスメント			講義
2	こどもの検査・処置に必要な看護技術 (1)骨髄・腰椎穿刺 (2)採血 (3)採尿 (4)吸引 (5)浣腸 (6)経管栄養 (7)プレパレーション			講義
3	こどもの救急処置			講義
4	主な症状に対する看護（乳児期の事例） (1)発熱、脱水、下痢、嘔吐：検査・処置に必要な看護技術、バイタルサインのアセスメント			講義
5	主な症状に対する看護（幼児期の事例） (2)呼吸困難：検査・処置に必要な看護技術（酸素療法、吸入）、バイタルサインのアセスメント			講義
6	主な病態に対する看護①（腎・泌尿器）			講義
7	主な病態に対する看護②（内分泌） 保育所演習オリエンテーション			講義
8	こどもの救急処置・検査・処置に必要な看護技術（胸骨圧迫・バイタルサイン測定・採尿・吸入・身体計測）			演習
9	保育所演習（6時間）			演習
10				
11				
12	保育所演習（6時間）			演習
13				
14				
15	保育所演習まとめグループワーク（1時間）			演習
16	試験（1時間）			試験
使用するテキスト 系統看護学講座 専門分野 小児看護学 1 医学書院 系統看護学講座 専門分野 小児看護学 2 医学書院 参考文献 講義の中で提示する				評価方法 筆記試験 80点 レポート等 20点

科目名 小児看護学方法論Ⅱ (健康障害時の看護)		配当時期 2年後期 単位数 1単位 時間数 15時間	講義担当者 箱崎 裕子 下谷 さおり	実務経験 看護師 新生児集中ケア 認定看護師
実務経験教員対象科目	○			
事前学習内容 小児看護学方法論Ⅰのこどもの検査・処置に必要な看護技術を復習すること。				
科目のねらい・授業目標 1 健康障害をもつこどもと家族を理解し、こどもと家族の状態に応じた看護について学ぶ。				DP との関連 DPIV-1 2 3 DPV-1
授業の流れ（全体のスケジュール（回数）・方法）				
回	学習内容			方法
1	病気・障がいがあるこどもと家族への看護① 医療的ケアを必要とするこども			講義
2	病気・障がいがあるこどもと家族への看護② 発達に障がいのあるこども			講義
3	病気・障がいがあるこどもと家族への看護③ 出生直後より集中治療を必要とするこども			講義
4	看護過程① 情報収集			演習
5	看護過程② 解釈・分析			演習
6	看護過程③ 関連図 看護計画			演習
7	看護過程④ 実践発表			演習
8	試験（1時間）			試験
使用するテキスト 系統看護学講座 専門分野 小児看護学 1 医学書院 系統看護学講座 専門分野 小児看護学 2 医学書院 参考文献 講義の中で提示する			評価方法 筆記試験 60点 パフォーマンス評価 40点	

科目名 母性看護学概論 (対象・目的の理解)		配当時期 2 年前期	講義担当者 佐藤 壽子 桃井 香代子	実務経験 助産師 看護師
実務経験教員対象科目	☐	単位数 1 単位 時間数 30 時間		
事前学習内容 シラバス内容を確認し用語について調べておくこと。				
科目のねらい・授業目標 1 母性看護の対象とその特徴や現代社会における女性の健康を取り巻く諸要因と地域性を理解し、母性看護の役割と機能について学ぶ。				DP との関連 DPⅢ - 1 DPⅣ - 1 2 3 DPⅤ - 1 2
授業の流れ（全体のスケジュール（回数）・方法）				
回	学習内容			方法
1	母性看護の基盤となる概念①			講義
2	母性看護の基盤となる概念②			講義
3	リプロダクティブヘルスケア①（性教育）			演習
4	リプロダクティブヘルスケア②（性教育）			演習
5	リプロダクティブヘルスケア③（性教育）			演習
6	母子に関連する理論（母子相互作用、愛着、家族）			講義
7	女性と母子を取り巻く社会（不妊症、暴力、虐待）（1 時間）			講義
8	リプロダクティブ・ヘルスに関する倫理①			演習
9	リプロダクティブ・ヘルスに関する倫理②			演習
10	リプロダクティブ・ヘルスに関する倫理③			演習
11	周産期医療のシステムと子育て支援に関する施策の活用①			講義 演習
12	周産期医療のシステムと子育て支援に関する施策の活用②			講義
13	ライフサイクルにおける女性の健康と看護の必要性①			講義
14	ライフサイクルにおける女性の健康と看護の必要性②			講義
15	ウェルネスに基づいた看護			講義
16	筆記試験（1 時間）			試験
使用するテキスト 系統看護学講座 専門分野 母性看護学概論 医学書院 マタニティ診断ガイドブック 医学書院			評価方法 筆記試験 80 点 パフォーマンス評価 20 点	

科目名 母性看護学方法論Ⅰ (妊娠・分娩期の看護)		配当時期 2年後期	講義担当者 佐藤 壽子	実務経験 助産師
		単位数 1単位 時間数 30時間		
実務経験教員対象科目	○			
事前学習内容 病態治療論Ⅵ、母性看護学概論の授業の復習をしておくこと。				
科目のねらい・授業目標 1 妊娠・分娩期の生理的变化とその特徴を理解し、この時期にある人々、又、これらの人々を取り巻く家族に対して必要な看護を学ぶ。 2 妊娠・分娩期の異常な状況を理解し、これらの人々に必要な看護を学ぶ。				DPとの関連 DPIII - 1 DPIV - 1 2 3 DPV - 1 2
授業の流れ (全体のスケジュール (回数)・方法)				
回	学習内容			方法
1	妊娠期の看護 妊娠期のマタニティ診断			講義
2	事例アセスメント (妊娠初期)			講義
3	事例アセスメント (妊娠中期)			講義
4	事例アセスメント (妊娠後期)			講義
5	母親教室の計画立案①			演習
6	母親教室の計画立案②			演習
7	母親教室の実際			演習
8	妊娠期の異常と看護			講義
9	筆記試験 (1時間)			講義
10	分娩第1期①			講義
11	分娩第1期②			講義
12	分娩第2期～第4期① 分娩期のマタニティ診断			講義
13	分娩第2期～第4期②			講義
14	分娩期の看護 (事例)			講義
15	分娩期の異常と看護			講義
16	筆記試験 (1時間)			試験
使用するテキスト 系統看護学講座 専門分野 母性看護学各論 医学書院 マタニティ診断ガイドブック 医学書院			評価方法 筆記試験 80点 パフォーマンス評価 20点	

科目名	母性看護学方法論Ⅱ (産褥・新生児期の看護)	配当時期	3 年前期	講義担当者	実務経験	
				佐藤 壽子 箱崎 裕子	助産師 看護師	
実務経験教員対象科目		○	単位数	2 単位	時間数	45 時間
事前学習内容						
母性看護学方法論Ⅰの授業を復習しておくこと。						
科目のねらい・授業目標					DP との関連	
1 産褥期と胎児・新生児期の生理的変化とその特徴を理解し、この時期にある人々、又、これらの人々を取り巻く家族に対して必要な看護を学ぶ。					DPⅢ - 1 DPⅣ - 1 2 3 DPⅤ - 1 2	
2 産褥・新生児期の健康問題を理解し、新生児とその家族に対して必要な看護と技術を学ぶ。						
授業の流れ (全体のスケジュール (回数)・方法)						
回	学習内容				方法	
1	褥婦の看護 (正常経過と看護)				講義	
2	褥婦の看護 (正常経過と看護)				講義	
3	褥婦の看護 (異常と看護)				講義	
4	褥婦の看護 (異常と看護)				講義	
5	産褥期のマタニティ診断 褥婦の経過診断と健康生活診断				講義 演習	
6	産褥期のマタニティ診断 ケア計画の立案				演習	
7	産褥期のマタニティ診断 保健指導計画の立案				演習	
8	産褥期の看護技術 模擬保健指導の準備				演習	
9	産褥期の看護技術 模擬保健指導の準備 (乳房・乳頭のケア、子宮底観察、授乳支援)				演習 講義	
10	産褥期の看護技術 模擬保健指導の準備				演習	
11	産褥期の看護技術 模擬保健指導の実際 (3 時間)				演習	
12						
13	筆記試験 (1 時間)					
14	新生児の看護 (正常経過と看護)				講義	
15	新生児の看護 (正常経過と看護)				講義	
16	新生児の看護 (異常と看護)				講義	
17	新生児の看護 (異常と看護)				講義	
18	産褥期・新生児期のマタニティ診断 新生児の経過診断と健康生活診断				講義	
19	産褥期・新生児期の看護技術の実際① (抱き方、調乳、計測、バイタルサイン)				講義 演習	
20	育児技術 (抱き方、調乳、計測、バイタルサイン) 実施				演習	
21	産褥期・新生児期の看護技術の実際② (沐浴・清拭)				講義 演習	
22	育児技術 (沐浴・清拭) 実施 (4 時間)				演習	
23						
24	筆記試験 (1 時間)				試験	
使用するテキスト					評価方法	
系統看護学講座 専門分野 母性看護学各論 医学書院					筆記試験 80 点	
母性看護技術アドバンス インターメディカ					パフォーマンス評価 20 点	

科目名 看護の統合と実践Ⅰ (医療安全 チーム医療)		配当時期 2 年前期～ 後期	講義担当者	実務経験
		単位数 1 単位 時間数 30 時間	黒田 史彦	看護師
実務経験教員対象科目		○		
事前学習内容				
人間関係論で学習した内容を確認しておくこと。 基礎看護学方法論Ⅱ（誤認、針刺し事故時の対応）、基礎看護学方法論Ⅲ（転倒・転落防止）、基礎看護学方法論Ⅵ（誤薬防止）で学習した内容を確認しておくこと。				
科目のねらい・授業目標				DP との関連
1 医療安全及び医療事故防止について基礎的知識を習得する。				DPⅡ-3 4
2 チーム医療、多職種との連携・協働の中で看護師としての役割を理解する。				DPⅤ-1
授業の流れ（全体のスケジュール（回数）・方法）				
回	学習内容			方法
1	チーム医療①看護師としてのチームアプローチ 看護の継続性 多職種との協働・連携			講義
2	多職種とチーム①多職種連携（6 時間）			演習
3	フィールドワーク			
4				
5	多職種とチーム②多職種連携 学びの共有 まとめ 発表(3 時間)			演習
6				
7	看護・医療事故予防及び安全の基盤となる考え方			講義
8	事故発生のメカニズムと防止対策			講義
9	間違いやすい診療補助業務①			講義
10	間違いやすい診療補助業務②			講義
11	間違いやすい診療補助業務③			演習
12	医療安全シミュレーション			講義・演習
13	ノンテクニカルスキル			講義
14	医療事故の分析の実際 KYT			講義・演習
15	多重課題の特徴と対応 多重課題			講義・演習
16	試験（1 時間）			試験
使用するテキスト				評価方法
系統看護学講座 専門分野 医療安全 医学書院				筆記試験 70 点 パフォーマンス評価 30 点

科目名 看護の統合と実践Ⅱ (国際看護 災害看護)		配当時期 3 年前期	講義担当者	実務経験
		単位数 1 単位	草野 ちづ 岡田 ひろみ	看護師 看護師
実務経験教員対象科目	○	時間数 30 時間		
事前学習内容 異文化理解で学習した内容を確認しておくこと。 専門分野で学習した内容を確認しておくこと。				
科目のねらい・授業目標 1 国際社会の中で看護師として果たす役割について理解する。 2 災害看護に必要な基礎的知識を習得し、看護の実際と役割について理解する。				DP との関連 DPⅣ-1 2 3 DPⅤ-1 2
授業の流れ (全体のスケジュール (回数)・方法)				
回	学習内容			方法
1	国際化と看護とは			講義
2	国際社会の現状と看護活動の課題			講義
3	国際協力活動と看護			講義
4	多様な文化を考慮した看護			講義
5	災害医療とは 災害の特徴 災害の定義 災害の種類と特徴			講義
6	災害と法制度 災害時の支援体制と医療体制 災害医療 (CSCATTT トリアージ)			講義
7	災害看護とは 災害各期の特徴			講義
8	災害各期における保健医療と看護師の役割①			講義
9	災害各期における保健医療と看護師の役割②			講義
10	災害時特有な疾患 災害時に必要な看護技術①			講義・演習
11	災害時特有な疾患 災害時に必要な看護技術②			講義・演習
12	病院における災害対策の実際 (医療センター見学 1 時間)			演習
13	災害各期における要支援者への看護①			講義・演習
14	災害各期における要支援者への看護②			講義・演習
15	災害と心のケア			講義・演習
16	試験 (1 時間)			試験
使用するテキスト 系統看護学講座 専門分野 災害看護学 国際看護学 医学書院				評価方法 筆記試験 100 点

科目名 看護の統合と実践Ⅲ (看護マネジメント、看護観の形成)	配当時期 3年後期	講義担当者	実務経験
	単位数 2単位 時間数 30時間	長谷川 吉子 佐々木 健一 飯高 祐子 草野 ちづ	認定看護管理者 医療安全管理者 感染管理認定看護師 看護管理者
実務経験教員対象科目	○		
事前学習内容 看護観をまとめるにあたり、「思い出に残る看護場面」のワークシートをまとめる。 授業後半の「働きやすい病院を作ろう」に向けて、授業ごとに資料を収集しておく。			
科目のねらい・授業目標			DPV-1 DPVI-1 2
1 看護をマネジメントできる基礎的知識を理解する。 2 3年間の学びと経験を通して自己の看護観を表現できる。			
授業の流れ（全体のスケジュール（回数）・方法）			
回	学習内容	方法	
1	看護管理とは 組織目標達成のマネジメント	講義	
2	マネジメントに必要な知識と技術（組織とマネジメント リーダーシップとマネジメント 組織の調整）	講義	
3	看護サービス提供のしくみづくり（看護単位 看護提供システム 交替勤務）	講義	
4	日常業務のマネジメント（看護業務基準 看護手順 看護・医療の標準化とクリニカルパス 情報の活用）	講義	
5	看護職のキャリアマネジメント（看護職のキャリア形成 タイムマネジメント ストレスマネジメント）	講義	
6	人材のマネジメント（新人看護職員教育 キャリアラダー 現任教育・研修 スペシャリストの活動 看護職の労働環境）	講義	
7	物品・情報のマネジメント リスクマネジメント		
8	試験（1時間）	試験	
9	リスクマネジメント①組織としての医療安全対策の実際	講義	
10	リスクマネジメント②感染管理の実際 感染防止対策	講義	
11	専門職としての看護の歩みと活動 社会貢献の可能性	講義	
12	看護制度を支える看護行政	講義	
13	看護サービスの質評価（診療報酬と人員配置 看護の人員配置基準と看護サービスの評価 重症度、医療・看護必要度 病院機能評価）	講義	
14	働いてみたい病院を作ろう	演習	
15	看護観の形成	演習	
16	試験（1時間）	試験	
使用するテキスト 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学1 医学書院 系統看護学講座 専門分野 看護管理 医学書院 よくわかる看護者の倫理綱領 照林社		評価方法 筆記試験 100点	

科目名 保健指導Ⅰ		配当時期 2 年前期	講義担当者	実務経験
		単位数 1 単位	迎田 美香	看護師
実務経験教員対象科目		○	時間数 30 時間	
事前学習内容				
成人看護学概論、老年看護学概論、成人看護学方法論Ⅰ～Ⅳの授業内容を復習しておくこと。				
科目のねらい・授業目標				DP との関連
1 慢性の健康問題を持つ、個人や家族へのセルフマネジメントおよび生活の再構築に必要な援助方法を学ぶ。				DPⅢ-2 3 DPⅣ-1 2 3
授業の流れ（全体のスケジュール（回数）・方法）				
回	学習内容			方法
1	健康問題を抱えて生活する人と医療、看護の役割			講義
2	ライフサイクル上の発達課題と健康問題①			演習
3	ライフサイクル上の発達課題と健康問題②			演習
4	セルフマネジメントのための対象理解①			講義
5	セルフマネジメントのための対象理解②			講義
6	セルフマネジメントを推進する看護方法①			講義
7	セルフマネジメントを推進する看護方法②			講義
8	セルフマネジメントを支援するアプローチ方法（集団健康支援と個別健康支援、多職種連携と看護師の役割、ソーシャルサポート）（1 時間）			講義
9	慢性心不全とともに生きるセルフマネジメント支援①			演習
10	慢性心不全とともに生きるセルフマネジメント支援②			演習
11	がんとともに生きるセルフマネジメント支援①			演習
12	がんとともに生きるセルフマネジメント支援②			演習
13	糖尿病とともに生きるセルフマネジメント支援①			演習
14	糖尿病とともに生きるセルフマネジメント支援②			演習
15	糖尿病とともに生きるセルフマネジメント支援③			演習
16	筆記試験（1 時間）			演習
使用するテキスト				評価方法
系統的看護学講座 専門分野 臨床看護総論 医学書院				筆記試験 70 点
系統的看護学講座 専門分野 成人看護学総論 医学書院				パフォーマンス評価 30 点
系統的看護学講座 専門分野 成人看護学 3 循環器 医学書院				
系統的看護学講座 専門分野 成人看護学 6 内分泌・代謝 医学書院				
系統的看護学講座 専門分野 成人看護学 9 女性生殖器 医学書院				
系統的看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院				
参考文献				
ナーシンググラフィカ セルフマネジメント メディカ出版				

科目名 保健指導Ⅱ		配当時期 3 年前期	講義担当者	実務経験
		単位数 1 単位	手戸 邦江	看護師
実務経験教員対象科目	○	時間数 15 時間		
事前学習内容				
保健指導Ⅰ、地域・在宅看護論の授業内容を復習しておくこと				
科目のねらい・授業目標				DP との関連
1 地域で生活する人が自分の持てる力で健康に暮らすことを支援する看護の実践について学ぶ。				DPⅢ - 2 3 DPⅣ - 1 2 3
授業の流れ（全体のスケジュール（回数）・方法）				
回	学習内容			方法
1	ヘルスプロモーションと看護① ・生活の場におけるヘルスプロモーション ・ヘルスプロモーションと地域包括ケア			講義
2	暮らしの保健室の開催 ・市内の集会所で健康教室（地域・在宅看護方法論Ⅰで立案したもの）実施			演習
3	ヘルスプロモーションと看護② 健康教室の計画（成人、高齢者、母子、心の健康） ・健康教室の目標とねらい、指導項目、指導内容			演習
4	ヘルスプロモーションと看護③ ・健康教室の指導項目、指導内容			演習
5	ヘルスプロモーションと看護④（1 時間） 健康教室の指導項目、指導内容			演習
6	ヘルスプロモーションと看護⑤（3 時間） 健康教室の発表・評価			演習
7	健康教室のまとめ（3 時間）			演習
使用するテキスト			評価方法	
配布資料による			パフォーマンス評価 100 点	
使用するテキスト				
新体系看護学全書 別巻 ヘルスプロモーション メディカルフレンド社				

科目名 周手術期と看護		配当時期 2 年後期	講義担当者	実務経験
			平澤 由希子 小川 久美子	看護師 集中ケア認定看護師
実務経験教員対象科目		○	単位数 1 単位	時間数 30 時間
事前学習内容				
成人看護学概論、成人看護方法論Ⅰ～Ⅳの授業内容を復習しておくこと。				
科目のねらい・授業目標				DP との関連
1. 周手術期にある人の身体的・心理的・社会的特徴とそれに応じた看護を学び、周手術期にある人を支援するために必要な基礎的知識を学ぶ。				DPⅢ - 2 3
2. 救急医療や集中治療などを受けクリティカルな状態にある対象を理解し、クリティカルケア看護の特徴を学ぶ。				DPⅣ - 1 2 3
授業の流れ（全体のスケジュール（回数）・方法）				
回	学習内容			方法
1	急性期看護とは、周手術期にある患者と家族の看護			講義
2	呼吸器系に障害のある人の手術（肺がん）① 手術前の看護、手術中の看護			講義
3	呼吸器系に障害のある人の手術（肺がん）② 手術前の看護、手術中の看護			講義
4	消化器系に障害のある人の手術（胃がん）① 手術後の看護			講義・演習
5	消化器系に障害のある人の手術（胃がん）② 手術後の看護			講義・演習
6	消化器系に障害のある人の手術（胃がん）③ 手術後の看護			講義・演習
7	術後 1 日目の看護			演習
8	術後 3 日目の看護			演習
9	ドレーン類の挿入部の処置、離床の援助（4 時間）			
10	消化器系に障害のある人の手術（大腸がん、人工肛門造設）			講義
11	集中治療を受ける患者と家族の看護 （集中治療を受ける場と対象の特徴・集中治療における看護師の役割） 循環器系に障害のある人の手術（弁膜症）			講義
12	脳神経系に障害のある人の手術①（クモ膜下出血、開頭手術）			講義
13	脳神経系に障害のある人の手術②（クモ膜下出血、開頭手術）			講義
14	循環器系に障害のある人の手術（腹部大動脈瘤）			講義
15	周手術期における小児と家族の看護（1 時間）			講義
16	筆記試験（1 時間）			試験
使用するテキスト				評価方法
系統的看護学講座 専門分野 成人看護学 1 成人看護学総論 医学書院				筆記試験 70 点 パフォーマンス評価 30 点
系統的看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院				
系統的看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 医学書院				
参考文献				
系統的看護学講座 別巻 クリティカルケア看護学 医学書院				
系統的看護学講座 別巻 救急看護学 医学書院				
系統的看護学講座 専門分野 成人看護学 2 呼吸器 医学書院				
系統的看護学講座 専門分野 成人看護学 2 消化器 医学書院				
系統的看護学講座 専門分野 成人看護学 2 脳・神経 医学書院				
系統的看護学講座 専門分野 成人看護学 2 循環器 医学書院				

科目名 エンドオブライフケア		配当時期 2 年後期	講義担当者	実務経験
		単位数 1 単位	黒田 史彦 小幡 嘉奈子	看護師 乳がん看護認定看護師
実務経験教員対象科目		時間数 30 時間		
		○		
事前学習内容				
看護者の倫理綱領の内容を確認しておくこと。				
科目のねらい・授業目標			DP との関連	
1 加齢や疾患によって人生の最期に至る経過を一連のものとして理解し、エンドオブライフケアにおける患者とその家族の Q O L の維持向上のための援助の基盤となる考え方、基礎的な知識を学ぶ。			DPⅢ - 2 3 DPⅣ - 1 2 3	
授業の流れ (全体のスケジュール (回数)・方法)				
回	学習内容			方法
1	最期までその人らしく生きることを支える看護とは (エンドオブライフケア、歴史と現状、生活環境)			講義
2	エンドオブライフケアにおける倫理			講義
3	患者の権利と意思決定支援 (アドバンス・ケア・プランニング)			講義・演習
4	全人的苦痛と援助方法①			講義
5	全人的苦痛と援助方法①			講義
6	緩和ケアにおける看護師の役割			講義
7	エンドオブライフケアにおける家族の心理 看取りと悲嘆への援助			講義・演習
8	臨死期の看護			講義・演習
9	事例演習 (がん患者) ①			講義・演習
10	事例演習 (がん患者) ②			講義・演習
11	事例演習 (がん患者) ③			講義・演習
12	精神的安寧を保つためのケア			演習
13	小児におけるエンドオブライフケア			講義
14	死について語る① 死生観の発表			演習
15	死について語る② 死生観の発表 (1 時間)			演習
16	筆記試験 (1 時間)			試験
使用するテキスト				評価方法
系統的看護学講座 専門分野 成人看護学 1 成人看護学総論 医学書院				筆記試験 70 点
系統的看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院				パフォーマンス評価 30 点
系統的看護学講座 専門分野 小児看護学 1 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院				
系統的看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論 1 地域・在宅看護の実践 医学書院				
系統的看護学講座 別巻 緩和ケア 医学書院				
看護学生のための ACP ワークブック メディカルフレンド社				
参考文献				
よくわかる 看護職の倫理綱領 照林社				

科目名 薬物療法と看護		配当時期 2 年前期～後期	講義担当者	実務経験
			緒方 仁美 西山 久美子	看護師 がん化学療法認定看護師
実務経験教員対象科目		単位数 1 単位 時間数 30 時間		
○				
事前学習内容				
薬理学、基礎看護学方法論Ⅸの授業内容を復習しておくこと。				
科目のねらい・授業目標				DP との関連
1 薬物療法における対象特性や看護師の役割を理解し、与薬における看護の基礎的な知識、技術を学ぶ。				DPIII - 2 3 DPIV - 1 2 3
授業の流れ（全体のスケジュール（回数）・方法）				
回	学習内容			方法
1	薬物療法における看護師の役割 （誤薬防止、薬物効果の確認、有害反応の早期発見と予防、服薬アドヒアランス）			講義
2	点滴静脈内注射の管理（三方活栓の使用方法 滴下計算）			講義
3	点滴静脈内注射の管理（三方活栓の使用方法 滴下計算）の実際			演習
4	高齢者の薬物療法と看護 （加齢に伴う薬物動態変化、ポリファーマシー、自己管理能力と家族関係）			講義
5	医療機器（輸液ポンプ、シリンジポンプ）を使用する薬剤の種類と操作			講義
6	医療機器（輸液ポンプ、シリンジポンプ）の操作の実際			演習
7	在宅での生活と薬物療法と看護 （在宅療養者の特徴、在宅での服薬管理方法）			講義
8	小児の薬物療法と看護 （小児の薬物動態、座薬、輸液管理、）			講義
9	化学療法における看護師の役割 （抗がん剤の効果と有害反応、人体へのリスクの大きい薬剤の暴露予防策）			講義
10	解熱鎮痛薬、薬剤の管理（毒劇・劇薬・麻薬）			講義
11	人体へのリスクの大きい薬剤の暴露予防策の実際 薬剤等（麻薬）の管理の実際 （1 時間）			演習
12	精神疾患を持つ患者の薬物療法と看護①（抗精神病薬）			講義
13	精神疾患を持つ患者の薬物療法と看護②（抗うつ薬、気分安定薬、睡眠薬）			講義
14	対象に応じた薬物療法の看護①（食事と薬物の相互作用、下剤）			講義・演習
15	対象に応じた薬物療法の看護② 服薬アドヒアランス向上への援助			講義・演習
16	筆記試験（1 時間）			試験
使用するテキスト			評価方法	
系統的看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進 [3] 薬理学 医学書院 系統的看護学講座 別巻 臨床薬理学 医学書院 系統的看護学講座 専門分野 臨床看護総論 医学書院 参考文献 講義の中で提示する。			筆記試験 100 点	